



絶叫の5分間

独走激撮!

嵐

山P 遅すぎた緊急謝罪、示談金は300万円

東山 1年 マスオさん 生活の本音

真木 愛娘運動会すっぴん

玉森 裕太 イケてるスーツ姿

矢口 真里 3つつの間違い

愛子 さま が嫌がる金曜日の時間割

週刊女性

特別付録
7年ぶりアルバム & 33年ぶり全国ツアー記念
竹内まりや
秘蔵写真集 & アルバム
本人解説

大反響 第2弾
認知症 止めを食い
妻が現職警察官夫からの地獄DVを告発
招死を 実 は危険な マッサージ

マッサン
北海道口速報
BEAST
トキメキ仲よし特写
窪田正孝 & 賀来賢人
再共演対談

JYJ

5万人熱狂ステージ
坂回杏里 カレとのホシの関係
みのもんた 古希祝いパーティーで思わず...
仁科 貴 150億円カレとハワイ挙式
伊藤 元 CAとスピード婚

格安スマホ デビューガイド

11月11日号
特別定価400円
主婦と生活社

NK活性 けて受験を乗り切る
綾瀬はるか スシヤル撮

大人の袋とど どのさうさま体験談

泣ける尾道 最新ガイド

骨盤切り上げ体操

政治とカネ問題 Q&A
政治家から香典受け取っていい? 冬ならうちわ配ってもセーフ? もらった顔写真ワイン飲むと罪?...

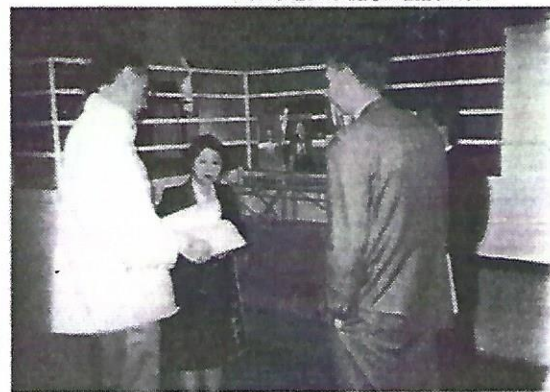
かすきれいこさん 開発
眉描き用メガネ
弓気田みずほさん 太鼓判
絶対美肌になれる シートマスク

アメリカ・シアトルで専業主婦から不動産会社を起業。いまやワシントン州1万8000人中、69位のトップエージェントに。遠い異国の地で、子どもの障がい、夫の死……幾多の困難を乗り越え、たんぽぽのように、強くたくましく根を張っていく。シアトルのゴッドマザーが送った七転び八起きの半生に迫る。

笑っているから幸せになれる
人生はいつだってポジティブだ
だから私は信じて生きる

「明日はきつと日本晴れ！」

仕事のモットーは「社長も自ら汗をかく」。売買契約が終わってからモトラブルなどには親身に相談に乗る



10月某日、雨のなか、小柄な女性が銀座の街を急ぎ足で通り過ぎようとしていた。

彼女の家があるアメリカ北西部の美しい街「レイン・シティ（雨の街）」シアトルから雨雲もついてきてしまったのか、この日の銀座は台風の影響で大荒れ。だが速度を緩める気配は微塵もない。

なぜならここから数分のとあるホールに、彼女の話聞くために80名近い人びとが集まっているからだ。

彼女は菅沼愛子さん（70）。商社マンだった夫・菅沼宏之さんの転動にしたがい、ひとり息子の秀夫さんとともにシ





宏徳エンタープライズ社長
菅沼愛子さん 70

人柄ビキメアトル

題字：水六輔

この日の講演のテーマは「降っても購れても」。テーマと合わせたような天候だった

アトルに移住。だが、宏之さんは2人を残して肺がんで急逝してしまう。

専業主婦から一念発起、45歳で猛勉強の末、資格を取って不動産会社を起業。シアトルのあるワシントン州に1万8000名いる不動産エージェントのうち、69位の成績を取めるトップエージェントに上り詰めた。現在では自身を含め、資格を持つエージェント6名を抱え、年間で総額20億円を超える物件を扱う不動産会社・宏徳エンタープライズの押しも押されぬ代表である。

だが彼女の真価は商才だけにとどまらない。

人柄の温かき、困った人をそのまましておけない面倒見のよさで、シアトルでは、「困ったときには菅沼さん」とも言われる存在なのだ。

元外交官夫人で、菅沼さんとは40年来の友人という川岸邦江さんが人柄をこう語る。

「優しい人ですよ。物件を見て回っているときも捨て犬や迷い犬に出会おうと助けたり。

物件引き渡しするとき、病氣や高齢で弱った犬が置いていかれてしまうのね。そういうのを見ると連れて帰らずにはいられないの。今でも10匹、以前には24匹のワンちゃんをお世話していたんですよ」

そんな彼女が、自分自身の生き方をこんなふうに語る。

「私ね、たんぼほって素晴らしいと思ってるのですよ。たんぼほは風に吹かれて落ちてるところで芽を出して、いつも上を向いている。踏まれても刈られても、すぐにちゃんとお水を生えてきて、たとえお水ももらえなくてもいつもニコニコ笑ってる。とても強さを感じます。」

私はそんなたんぼほのように生きていきたい——

菅沼さんは、1944年、東京都大田区鶴の木で、大田区議や区議会議長を務めた小田七藏氏を父に5人きょうだいの次女として生まれた。

菅沼さんが大学生だったときの話である。所属していた女子大の庭球部に、慶応のテニス部員の中に夫となる宏之さんが臨時コーチとしてやって来た。

「女子だけの大学で、庭球部といっても同好会といった感じで練習に集まるのもホッポツタラダラ。そんなところに



捨てられそうな犬を放っておかず、自宅で24匹の世話をしたことも



母、妹(中央)、友人と。向かって左が菅沼さん

体育会系の菅沼がやって来たものだから、「お前たちはテニスをしたいのか!?」したくないのか!? そのダラダラした態度はなんだ! 全員、そこに座れ!

親にさえそんな叱られ方をされたことがないお嬢さんばかりである。キャプテンだった菅沼さんが一同を代表して猛抗議した。となれば、抗議したほうもされたほうも、お互いそっぽを向き合うのがいいところ。

「それなのに夜になったら電話がかかってきたんです。昼間のことなんか忘れてしまっただかのように笑いながら、今度、近くのクラブで行われるトーナメントに、ミックス(ダブルス)で出ない? と誘われたんです(笑い)」

それがきっかけになり、数年の交際の後、1967年、菅沼さん23歳、宏之さん25歳で結婚。新郎は大学を卒業後、大手商社に就職して将来を嘱望されるエリートサラリーマンとなる。菅沼さんもそんな商社マンの妻として、充実した毎日を送っていた。2年後の1969年には待望の長男、秀夫さんが誕生。あの時代の日本映画にでも

お腹に忘れ物をして生まれたわが子

「東中野の昔からある普通の産院での出産だったんです。が、上の階で赤ちゃんの泣き声はするんだけど、なかなか抱かせてもらえない。赤ちゃんと黄疽が出ていて対応しているからというんです。『そんなんですか』と言ったんですが、きつと問題があるんだろうなあと思っただけです」

まんじりもせずひと晩明けたら父・七藏さんと宏之さん、主治医の先生がやって来た。「まずは父が、おめでと。とつてもかわいらしい男の子だよ」と言っただけ。でもちょっと問題があるんだよ。『ぼつちり目のとびきりかわいい男の子。だがわが子の左手は、ひじの先に45度に曲がった指がたった一本ついているだけという状態だった。突然襲いかかった驚きと不安、そして悲しみ——。菅沼さんは天井を見ながら



下は5~6歳の最愛の息子・秀夫さん。ボーイスカウト姿がかわいらしい。上はワシントン大学卒業時

「足がついていて頭だつてちゃんとある。だつたら左手全部がなかったとしても大丈夫。必死で育てていくしかない!」

そのわずか1年後の1970年、今度は夫・宏之さんにシアトル転勤の辞令が下った。「言葉の通じる日本でさえ片腕の子を抱えて大変なのに、言葉が思うように通じないアメリカに行くのか、と……」

1971年夏、1歳10か月のたんぼほの種が海を渡った。海外で暮らす日本人などまだ珍しかったこの時代の生活は、笑える話、興味深いエピソードにあふれている。「魚屋さんに行く、おいしい。そんなカニがこんな(山積み)になってる。なのに一番おいしいお味噌を捨てて、

キレイに洗ったりしてくれちゃうの。私はあわてて、そのまま! そのまま!。それから私がお店に行くと、OH! SONOMAMA SAN(そのままさん)、HOW ARE YOU? っ(笑い)」

アメリカ生活に欠かせない運転免許の路上試験には、秀夫さんをおおい、ねんこ姿で、日本伝統の子育てアイテムは、視線を集めるのに十分すぎるほどだった。初の海外赴任生活は、ポートランドへの引越しをはさみ、現地で友人となった人たちの友情と思いやりのもと飛ぶように過ぎていく。

特にポートランドのイーストモーランドで当時4歳だった秀夫さんの保育園友達・ボークンを紹介して知り合ったその母・シャロンさんは、かけがえない友人となる。「30年を越えるアメリカ生活のなかで、ここでの2年間がもっとも充実していたように

思います。英語が聞き取れるようになったのも、シャロンをはじめ、多くのアメリカ人と知り合えたからでした」

そんなイーストモーランドでの1973年、菅沼さんと宏之さんは、秀夫さんの左腕の1本指を切断する決意を固める。大人になっても1本指を抱えているよりは、いつそひじから先がないほうが自然なのではないか。考え抜いた末の決断だった。

手術は大成功、1週間後には無事退院できたものの、義手のトレーニングが難関だった。当時の義手は金属と石膏でできていて、4歳の子が肩からつけて歩くには負担が重すぎた。きついトレーニングに幼い秀夫さんはみるみる元気をなくしていく。

「義手はずして、病院行くのもやめにして公園行こうか?」、秀夫にそう尋ねました。義手をつけられればできるようになることもたくさんあるかもしれないけど、明るい子に育てることのほうが大切にしたいなと思っただから」

秀夫さんの、蘇ったかのようには元気が響き渡った。「ホント!? ひーちゃん、ポ」と一緒にいきたい!

秀夫さんありのままの姿で育てる。健常者と同じ姿勢にするのではなく、違いがあ

るまま不自由を乗り越えていく。お互いの違いに寛容な、アメリカこそその生き方だったのかもしれない。

今では菅沼さんの会社を支えるばかりでなく、片手のままでテニスからスキーやゴルフ、ラグビーまでこなす「ひーちゃん」こと、息子の菅沼

愛する夫の突然の死を乗り越えて

それから6年後の1979年、宏之さんに辞令が下り、8年間留守にした日本へ。

菅沼さんの第2の故郷となったシアトルに戻ったのは、それから5年後の1984年のことだった。

5年ぶりとなるシアトルは冬。澄み渡る空と、北国特有のピリッと肌を刺すような寒気が菅沼さん一家を迎えてくれた。

だが、わずか1年後……。「夫が会社の健康診断を受けたんです。そういうものが嫌

秀夫さん(45)がこう語る。「世の中にはもつと大変な障がいを持った人がたくさんいる。左腕が不自由だけど、神様がいちばん使わない左手をとったのなら、それはそれでラッキーなことだと思わよ、そう母に言われたのを覚えていますね」

「もう奇跡は起きません」1987年8月1日の深夜、治療のいかなく菅沼宏之さん逝去。享年44歳。

希望という扉が開ざされてしまつと、人は苦しみ、悲観に暮れる。だが後になって振り返ると、かすかながらも一方の扉が開いていたことに思い当たることがある。

菅沼さんの場合、それは宏之さんの生前に見つけた、街を見下ろすサマセットの丘にある当時の自宅との出会いだったのかもしれない。

「夫は景色を見るのが好きな人で、サマセットの丘からは素晴らしい夕日が見えるんです。夏はとくに、涙が出るくらい夕焼けが美しいのです」

家の前に「FOR SALE(売り家)」という不動産会社のサインが出ていた。内部を見せられておおうとチャイムを鳴らすと、年配の男性が

出てきてはこんなことを言う。「エージェンツに電話してから来て下さい」

アメリカでは普通、不動産の売買は資格を持ったエージェンツを通して、お互いの希望金額をやりとりするのだ。「エージェンツって何? エージェンツを通すってどういうことすらも、当初はなんのことかもわからなかった」

前出の川岸さんが言う。「見晴らしのいい、夕日の美しい家で過ごさせてあげようと、その一心だったんですよ。そのための困難とかは一切考えない人なの」

だがこれが、その後、菅沼さんがトップエージェンツとなる不動産業界との初めての出会いだった。

風に吹かれて太平洋の大海原を飛んでいったたんぼほの種が、シアトルの地で芽吹き始めようとしていた。

筋金入りの専門主婦が日本語教員に

「亡くなる際、夫は私に、秀夫にはアメリカに骨を埋めてほしい」と言い残して逝きました。そう言っていて亡くなったのなら、希望どおりの生き方をしたいと思いましたが、

違いがあるのが当然で、それゆえ身体に不自由があつても負い目を感じることなく生きていける。そんなアメリカで親子で暮らし続けるには、

ビザを取得しなければなら

「見晴らしのいい、夕日の美しい家で過ごさせてあげようと、その一心だったんですよ。そのための困難とかは一切考えない人なの」

だがこれが、その後、菅沼さんがトップエージェンツとなる不動産業界との初めての出会いだった。

風に吹かれて太平洋の大海原を飛んでいったたんぼほの種が、シアトルの地で芽吹き始めようとしていた。

筋金入りの専門主婦が日本語教員に

「亡くなる際、夫は私に、秀夫にはアメリカに骨を埋めてほしい」と言い残して逝きました。そう言っていて亡くなったのなら、希望どおりの生き方をしたいと思いましたが、

違いがあるのが当然で、それゆえ身体に不自由があつても負い目を感じることなく生きていける。そんなアメリカで親子で暮らし続けるには、

ビザを取得しなければなら

「見晴らしのいい、夕日の美しい家で過ごさせてあげようと、その一心だったんですよ。そのための困難とかは一切考えない人なの」

だがこれが、その後、菅沼さんがトップエージェンツとなる不動産業界との初めての出会いだった。

人びとにキメを

次号(10月)パロン別エロポナイー脚胸ビップの作り方 寒さ吹き飛ぶ絶好調号は11月4日(火)発売!



サマセットの家は、シアトルの街から車で約20分ほど離れたベルビュー市にある

だが宏之さんの容体はだんだん下り坂となる。化学療法が3週目に入ったころには黒々としていた宏之さんの髪はひと晩で抜け落ち、げっそりとやせ、かつて菅沼さんを魅了した、たくましいスポーツマンとは別人のようになつていった。主治医は菅沼さんに避けられない事実を伝えた。

「亡くなる際、夫は私に、秀夫にはアメリカに骨を埋めてほしい」と言い残して逝きました。そう言っていて亡くなったのなら、希望どおりの生き方をしたいと思いましたが、違いがあるのが当然で、それゆえ身体に不自由があつても負い目を感じることなく生きていける。そんなアメリカで親子で暮らし続けるには、ビザを取得しなければなら



シアトルの自宅で、キッチンをオフィス
による相談事会社を起業したところ

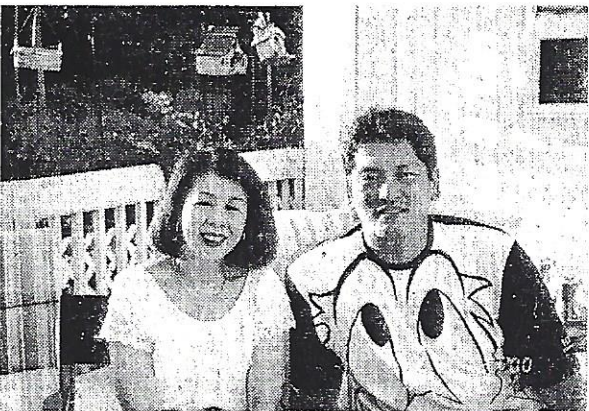
2校目で
出会った
人が紹介
してくれ
ました」
540
人を抱え
る日本語
補習校で
教えるか
たわら、
2校目で
3校目で

「さっそく、シアトルの日本人駐在員の子弟が通っている日本商工会運営の日本語補習校へ。教師が足りないのか、面接と履歴書だけで採用が決まりました。」
2校目は、「日本語を教えるクラスはありませんか?」「講師を募集してはいませんか?」とアメリカ人が通う学校に電話して。最後の1校は

はアメリカ人たちに日本文化を教える毎日。
それから3年後、1校目の日本語補習校で思いがけない事件が菅沼さんを襲う。
「運動会の練習をしていたら目の間に衝撃が。血だらけになったんです。最初は目をやられたのかなと思っただけですが、全部見える。それじゃあ頭!? と触ったら傷がない」
当の本人にも何が起こったのか見当もつかない。駆けつけた警察官からは、驚くような答えが返ってきた。
「あなたは狙撃されたんだと思います」
銃で撃たれると、衝撃が強ければ強いほど血が噴き出すが、傷は閉じてしまうのだという。よく見れば、確かに眉間に刺されたほどの小さな穴があいていた。眼球を支えている骨3か所に跳ね返ったあと、眉間の真後ろで止まっていたらしい。
加害者は13歳の少年で、使ったのは空気銃。戦争ごっこをしているうちに人を撃つてみたくなったのだという。学校を隔てる金網からの銃撃で、撃たれた弾があと1ミリずれていたら間違いなく即死という状況だったが、眉間を撃たれたというのに、視力に障害も出なければ、後遺症もなかった。
医師が「神がかっているほど奇跡的」と驚いた、まさに

九死に一生という状況。だが本人はケロリとして言う。
「ごつちの目がなくなってもごつちが見えているんだから、まあいいか」って思った
シアトルの、よるず相談受付所
九死に一生という経験だったが、時はそんな経験にも頓着せず過ぎていく。教職を得ることで取得したH1ビザの延長期限である5年目が、目の前に迫ってきたのだ。
「長期滞在するためには、あなたのビザをH1からE2ビザに変更する必要があります。す」
相談に行くと言った。E2ビザとは投資をして会社を興し、現地の雇用や税収に寄与した人に与えられるビザのことである。弁護士は菅沼さんに、シアトルで暮らしたいなら起業せよ、経営者になれと言っているのだ。
「会社を作るといってもできることしかできない。では何をしようかと。それまで10年近くシアトルにいて困ったのは家のこと。家を借りるときなどは、お金を払ってでも日本語で相談できて、いろいろとやってくれる会社ってないものかなあ。それでピンとひらめいて(笑い)、ではそういうよろず相談事会社を作ろうと主人の名前・宏之から一文字拝借、1991年に設

立したのが、宏徳エンタープライズだったんです」
当時を振り返り、秀夫さんが言う。
「ごつち(シアトル)に残るには、会社設立しかもう方法がなかった。だから走り回っていましたね。でもうれしかったですね。当時、自分はこつちの大学の学生で、その私と暮らすためにやってくれたわけですから」
キッチンをオフィスにしての起業だったが、現地の地方紙に小さな広告を出したとたん、離婚の相談から酒酔い運転の日本人ドライバーの身元引き受けまで、相談事が殺到した。
シアトルには1万5000人の日系米国人と1万人を超える在留邦人がいる。目のつけどころは抜群だったが、これがとんと儲からない。
「日本人って、目に見えないサービスには、ありがたうございまして。助かりました」で終わってしまうんです(笑い)」



家探しをきっかけに、元シアトルマリナーズの佐々木浩選手とは家族ぐるみのお付き合いを

手元に残ったのは、悩み解決に奔走する際に使用した携帯電話の請求書だけ。その金額が1か月1800ドル(20万円以上)になっていた。
「これじゃあビジネスとしてはやっていけない。ではどうしたらいいかと考えると、真っ青になって『菅沼さん!』と駆け込んでくるのはみんな不動産がらみ。だったら不動産屋さんを設立しよう」と
それもただの不動産会社じゃない。売買契約が終わったからそれで縁が切れるのでなく、そこからまたビジネスが始まって、よろず相談事を引き受ける会社を作ろうというのだ。
「ところがアメリカでは自身にライセンスがないと不動産会社は作れないんです」
さっそく、猛勉強を開始。45歳の受験生の誕生だった。



本日での講演は、これまで8回に及び

層間には、今もぼつんと小さく銃弾のあとが。弾は5時間にもおよぶ手術で弾出した

「3、4センチ以上の厚さの本4冊を勉強して、5時間の試験を受けるんですけれど、ページをめくったら聞いたことのない単語が1行に3つも4つも。これを4冊なんて一生ダメだろうと思っただけでも、私の場合、ほかにアメリカに残る方法が何もない」
「そんな状況のなか、よろず相談業の仕事をしながら夜9時から朝の5時まで試験勉強を続けた。」
「結果は見事、合格！」
「よかった！」という思いと、「え!? ありえない」と

不動産トップエージェンツの1人に

「アメリカのシアトルで、日本人が日本語で不動産取得をサポートしてくれ、売買契約が終わっても、水道管詰まりの解決から隣人とのトラブル、学校のことまで親身に相談に乗ってくれる。そのうえ社長自身が、なんと自ら引越した後のゴミ捨てまでしてくれる。」

「社長の私も汗を流すということは、会社を設立したときに決めた自分自身との約束。家の最終確認は私がして、汗を流してゴミ袋を積み、トラックを運転します」
「それまでなかったこのサービス、またたく間に現地日本人たちの評判となる。」
「そんな1999年の冬、菅沼さんのオフィスの電話が鳴った。カリフォルニアにある不動産会社から家を見つけてほしいという依頼だった。」
「パーキングが5台欲しい」と言うんです。5台の駐車スペースなんてありません。どこにもないと思いませんか。と伝えると、佐々木さんという方からの依頼だったんです」

「自宅に帰り、菅沼さんが秀夫さんに、佐々木さんからの依頼を伝えると、秀夫さんの表情が驚きへと変わった。」
「それ、シアトルマリナーズの大魔神・佐々木主浩投手からの依頼だよ!!」
2001年1月にもうれしい連絡がやって来た。電話の相手はIMSという、全米の不動産ライセンズ保持者のデータを集計する会社。

「ミズ・スガマ。あなたはワシントン州すべてのエージェンツのうち、1%の成績を達成しました。現



著書『降っても購れても』の出版を菅沼家の先祖に報告

「夜も寝ないで働いたけど、ありえない!!」って思いましたね(笑い)。

大きな何百人もエージェンツを抱えたような不動産会社のエージェンツって、成績がよければよいほど威張っています。問い合わせの電話をしても、返ってくるのは3日目とかね。自分はそんな人たち以上の仕事をしたんだと、いい意味で自信になりました」

水も与えられなかったたんぼぼが、自らの力で花開き、天に向かつて悠然と微笑んだ。

話を現在に戻そう。
台風直下の銀座を歩く菅沼さんの目的地、銀座3丁目の紙バルブ会館で行われた講演は、雨のなか集まった80名弱の人びとで賑わっていた。

「私は幸せだから笑顔になるのではなくて、笑顔だったから幸せになるんだと思います」

山あり谷ありの半生から導

き出されたアドバイスに、女性の聴衆は頷き、狙撃された際のエピソードには、男性の聴衆から驚きの声が続いた。
聴衆の1人、千田みどりさん(53)は、
「知り合いにすすめられて来ました。来てよかった。人生にはポジティブに向かった方がいいとダメだなあと思いました」
本田世紀子さん(71)は、
「波乱の人生にびっくりしました。女性の底力って、すごいなあと思いましたね」
講演会はギヤラなしのボランティアで。シアトルからの飛行機代も、菅沼さん負担である。

「講演は、この人(菅沼さん)に会ってみたい」という人たちの声に響いて。ただの主婦だった私の人生を話すことで元気をあげられ、いい方向に向かえるならうれしいという意味があると思うんです」
たとえどんな大雨に降られても、いつかはきつと晴れ渡る。気がつけば台風の豪雨はどこへやら。たんぼぼの頭の上には、台風一過の抜けるような青空が広がっていた。

取材・文/千羽ひとみ
撮影/藏澄侑希

せんぼんとみ ライター。神奈川県出身。企業広告のコピーライター兼編集者。ドキュメントから料理関係、実用まで幅広い分野を手がける。「人間ドキュメント」取材のたび、「市井の人物ほど実は非凡」であると実感。その存在に毎週、圧倒されている。

欠三AKAIBO 眼座美人YOUのBAGをきいて 徹底調査 寒さ吹き飛ばす絶好調号は11月4日(火)発売!